

大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校
大南学園第七小学校
学園だより NO7
令和6年9月27日

「日常生活の中から学ぶ」

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

校長 川口 周作

この時期は、〇〇の秋という言葉がよく聞かれます。そして、学校だより等でも毎年のように文面でも表現されます。本校の推進している「読書・食・運動」などに関する秋は、1年間の後半をスタートする時期でもあります。さて、「学ぶ」についてです。

「本や漫画から学ぶ」

今夏、図書の本の寄贈が、学校関連団体や地域の方からありました。また、子供たちが応募した俳句の副賞としての寄贈もありました。新しいたくさんの図書の本と同時に、コミック漫画も入荷しました。今までも学習漫画や一部コミック漫画はありましたが、今回は、全巻完結されたコミック漫画が入荷できました。コミック漫画は、文字を読む、キャラクターの心情を知る、社会的背景を知ることでもあります。決して、悪い影響のものばかりではありません。漫画の内容によっては、学びにつながるものもあります。また、本を読むジャンルを広げてくれる一面もあります。

「買い物から学ぶ」

1学期終わりの終業式に「本物を知る」という話から、スーパーなどに行って野菜や魚などの本物を見るようにしようという話をしました。そのスーパーなどは、学校の学習につながる場でもあります。加工食品や肉や魚などは家庭科につながります。また、算数につながる数字や言葉がたくさんあります。〇〇円・〇グラム・〇%引・〇割引・個数・合計・おつりなどです。漢字やひらがな・カタカナはありとあらゆる場や商品に書かれています。これは、国語です。それから生産地表示は、社会です。

「体験活動や経験から学ぶ」

今年度、学習農園は休み時間にも出入りは自由になっています。先週の中休みは、三年生の数人が生き物を探したり、植物を観察したりしていました。また、三年生女子の三人が雑草を抜いて畑をより良くしていこうという姿も見られました。植物や生き物を見つけることも学びです。

日常の生活には、多くの学びがあります。家庭での生活・学校での生活の中で物事に対して意識を高めることで、たくさんの気づきや発見があります。生活の中から、学校の学習につながったり、将来につながったりすることもあります。これからも、日常生活からの学びを大事にしていけるとよいですね。

～食のお話～

日本では、二千年続いてきた米を中心とした伝統的文化及び重要な行事は、すべて「米づくし」です。昔は神社やお寺にお参りするときは、洗米を紙に包んだ「おひねり」をたずさえていくのが当たり前でした。米は他のものとは別格で、神聖な穀物であり、ふだんの食べ物ではなかった証拠でした。だから、お祭りや節日など、ハレの日にだけ白米飯を食べていました。ハレの日に米の飯を食べるといのは、疲れを癒して活力を養い、ひいては長寿を祈ることもあったとも言われています。私たちの先祖は、「米作り」と「米の飯」に苦労しながらも、様々な知恵のメッセージを残していることを知ることができます。

引用文献：和食ことわざ事典（東京堂出版）